

# 教職入門

## 科目のねらい

本科目は、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解(DP2-1)し、今日の学校教育や学校教員の現状、取り巻く諸問題についての概要をおさえながら(DP3)、教員の仕事について具体的な検討を行い、一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく、教職科目である。

担当教員	土屋久美
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

## 授業の概要

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容等、基礎知識を学び、教育の重要性や教師の使命感、倫理観について歴史的視点、また、直近の学習指導要領の理解を通して、様々な事例から教職としての知識・スキルを学ぶ。

## 到達目標

- (1) 教職の意義、および教員の役割を理解することができる。
- (2) 生活や学習に困難を抱えた児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教員の向き合う課題の多様性、複雑性を知り、教職への理解を深めることができる。
- (3) 新学習指導要領を理解しながら、関連する領域の実践方法を考えることができる。

## 各回の内容

1. 学校教育と教師～チームとしての学校（専門人材の活用、地域との連携・協働）
2. 教職の意義と教師の役割～教員の服務（職務上の義務・身分上の義務及び身分保障）
3. 専門家としての教師
4. 授業のデザイン
5. 授業から学ぶ
6. カリキュラムをデザインする
7. 子どもを育む～寄り添う・受け取る・守る
8. 学級経営と教科～チームとしての学校（学校マネジメントの組織化）
9. 現職教育の意義～校内研修を通じた学校運営の取り組み
10. 学習指導要領の役割
11. 分かる授業と教材研究
12. 授業と評価
13. 教職の歴史
14. 教育改革と教師の使命
15. まとめ

# 教職入門

## 準備学習（予習・復習等）

教育関連のニュースおよび新聞記事に関心を持つ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 教育方法

学生へ課した課題から、意見を求め全体で深めていく。(発表、意見交換)  
授業の中で随時学生に質問を投げかけ、対話型の授業を行う。

## 評価方法

- ・授業への取り組み（リアクションペーパー）40%
- ・レポート提出（20点×3回）60%

## 教科書

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

## 参考文献

小学校学習指導要領

中学校学習指導要領

「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申）（中教審第185号）

# 教育課程・教育の方法と技術

## 科目のねらい

本科目は、社会のニーズに対応できる食育・栄養の専門知識とプレゼンテーション能力を修得するための科目である。教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを関連づけて、基礎的な理解の構築とスキルの習得を目指す。

担当教員	坂本 篤史
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年（栄養教諭）
時間数	
単位数	2

## 授業の概要

教育課程編成の意義や方法について、理論と実践事例を往還しつつ、他者との議論を通して理解を深める。また、教育課程に基づく教育の方法について、理論と実践事例を往還して理解を深めつつ、具体的な技術の習得を目指す。

## 到達目標

<教育課程編成に関わる内容として>

- 1) 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
- 2) 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
- 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。
- 4) 教育課程編成の基本原則を理解し、教科、領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
- 5) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。
- 6) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

<教育方法に関わる内容>

- 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
- 2) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。
- 3) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。
- 4) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
- 5) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
- 6) 子供たちの興味・関心を高めたり課題課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができ、子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

# 教育課程・教育の方法と技術

## 各回の内容

- 
1. ガイダンス 進め方と評価

---

  2. 教育課程とは

---

  3. 学習指導要領の歴史の変遷

---

  4. 社会に開かれた教育課程

---

  5. 教育課程編成の基本原理と方法

---

  6. 教育課程編成の事例検討 - 教科・領域横断の視点から

---

  7. 教育課程編成の事例検討 - 教科・長期性と地域性の視点から

---

  8. カリキュラム・マネジメントとは

---

  9. これから求められる教育方法

---

  10. 教育内容 - 教材 - 子どもとの関連から

---

  11. 求められる学力と学習評価

---

  12. 情報技術を活用した指導と学び

---

  13. 授業実践の事例に学ぶ - 指導技術の観点から

---

  14. 授業実践の事例に学ぶ - 学習指導の観点から

---

  15. 本講義のまとめ：学習指導案の作成

---

  16. レポート試験
-

# 教育課程・教育の方法と技術

## 準備学習（予習・復習等）

その日の授業で提示された次回までの課題に取り組むこと。

授業で取り上げたいいくつかの問題と議論について振り返り、自分自身の考えを、時間をかけて整理すること。

授業で紹介された参考資料や配布された資料を熟読し、疑問に思ったことやさらに知りたいことについてインターネット等を活用して調べ、授業で考えた問題について、より多面的かつ深化した考えを持てるようにすること。

栄養教諭の教育実践に求められることについて、制度的な動向に気を配り、情報を収集しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 教育方法

- ・講義
- ・グループでの課題解決型学習
- ・知識構成型ジグソー法の体験的学習
- ・ICT活用

## 評価方法

教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを結び付けて基礎的な理解が構築できたかどうか、スキルの習得ができたかどうかについて、以下の事項をもとに評価する。

- 1.授業における協議への貢献（30％）、2.授業中の提出物の内容及び表現（30％）、
- 3.講座終了後に提出する最終レポートの内容（40％）

## 教科書

特になし

## 参考文献

小学校学習指導要領（平成29年告示）、中学校学習指導要領（平成29年3月告示）

「新しい時代の教育課程 第3版」田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加奈恵（2011）有斐閣アルマ

「学校教育と学習の心理学」秋田喜代美・坂本篤史（2015）岩波書店

「教育の方法」佐藤学（2010）放送大学書

# 生徒指導

## 科目のねらい

生徒指導とは「学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることをめざす」（生徒指導提要）ものである。生徒指導をめぐる今日的課題を通じて、児童生徒の自己教育力の形成と栄養教諭の在り方について深める。

担当教員	鈴木 庸裕
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年（栄養教諭）
時間数	
単位数	1

## 授業の概要

東日本大震災の教育復興を念頭に置きつつ、これまでの生徒指導について、その課題と在り方について論じる。学校経営や学級経営、学級集団作りを考えていくうえで、学校、家庭、地域の連携に根差したものの見方、感じ方、考え方を養う。栄養教諭としての資質である子どもの発達と家庭生活への対応についても深める。

## 到達目標

- ・子ども理解を基本として、個性の伸長や自己指導能力の育成、「生き方の指導」について理解し、家庭や地域の諸状況を踏まえた学校における生徒指導の実際に対応する資質能力を高めることができる。
- ・生徒指導をめぐる今日的課題を実践的に学ぶことによって教職者としての資質能力を高めることができる。

## 各回の内容

---

1. 生徒指導をめぐる今日的課題

---

2. 生徒指導の理論と方法

---

3. 学級経営と学習～子どもの学力保障と生徒指導の機能～

---

4. いじめ問題、非行問題へのアプローチ

---

5. 不登校問題へのアプローチ、家庭養育への接近

---

6. 食をめぐる子ども理解

---

7. 学校が行う家庭支援、学校の福祉的機能

---

8. 児童虐待と生徒指導

---

9. 定期試験

---

# 生徒指導

## 準備学習（予習・復習等）

指示された図書・資料について、事前に1500字のレポートを作成し、講義時に持参すること。このレポートには、指定された章の要約、論点としていた事柄、その理由の3点を明記すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 教育方法

テキストや参考文献・資料を事前にレポート化し、学習課題の論点をめぐるグループ討議を中心に、主体的な学習を期待する。毎回、グループディスカッションを行い。自身の考えを他者にしっかりと伝えることができるようにする。

## 評価方法

授業参加状況50%、課題レポート50%

## 教科書

鈴木庸裕著『学校福祉のデザイン』（かもがわ出版）

## 参考文献

生徒指導提要他、授業内で指示する

# 道徳・特別活動・総合的な学習の時間

## 科目のねらい

道徳・特別活動・総合的な学習の時間の目標・特徴・内容・実践について、実践的に理解し、栄養教諭として必要な資質の向上を図る。様々な学習内容・授業実践・活動について理解し、同時に児童・生徒の実態を理解するための科目である。

担当教員	古関 勝則
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年（栄養教諭）
時間数	90分×15回
単位数	2

## 授業の概要

本科目は、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容について、学校で現場での具体的な実践事例をもとに、学生間・学生と教員の対話をもとに学んでいく科目である。

## 到達目標

道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関して、それぞれの意義・目標・内容等について関連性をもちながら理解する。

## 各回の内容

1. 「総合的な学習の時間」が生まれた経緯、目標、実践
2. 主体的・対話的で深い学びの実現を図るための探求的、横断的・総合的な学習とは何か
3. 「横断的・総合的な課題」 国際理解、情報、環境などの事例から
4. 「横断的・総合的な課題」 福祉、教育、健康などの事例から
5. 「児童の興味・関心に基づく課題」 教育内容の横断的・発展的事例から
6. 「児童の興味・関心に基づく課題」 生活場面での疑問の探求事例から
7. 「地域や学校の特色に応じた課題」 地域・伝統文化・ESDなどの事例から
8. 指導計画作成にあたっての考え方 全教育活動・他教科、主に道徳教育との関連
9. 特別活動の意義・目標・内容 学習指導要領から
10. 学級活動・ホームルーム活動の基本的な指導と課題 実践事例などから
11. 児童会・生徒会活動およびクラブ活動の基本的な指導と課題
12. 学校行事の種類、基本的な指導と具体的な展開
13. 道徳教育の意義・目標・内容 学習指導要領から
14. 道徳教育の歴史と現状・課題、教材としての特徴
15. 道徳教育の学校現場からの具体的課題 いじめ・情報モラルの視点から
16. 試験



# 道徳・特別活動・総合的な学習の時間

## 準備学習（予習・復習等）

毎回指定テキストを用いて授業を進めるので、事前にテキストを読み、予習しておくことが望ましい。同時に、授業後はテキスト・資料等を読み、復習することで理解を深めることが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 教育方法

- ・グループワーク（話し合い・集団遊び等）で楽しみながら理解を深めていく。
- ・授業実践や学校行事の映像を見ることで視覚的な理解を深める。
- ・実践を分析していく中で、途中で「この後どんな実践が考えられるか」を話し合い、実践力を高めていく。
- ・授業ごとに振り返りレポートを記入し、その中から、質問事項や優れた意見等を次回のレジュメで紹介し、課題解決、学習意欲を高める。

## 評価方法

下記の観点を基準に総合的評価する。

出席・振り返りレポート（毎回授業の感想を記入）50% 積極的な授業への参加20% 試験30%

## 教科書

- 「小学校学習指導要領 道徳編」（平成29年告示 文部科学省）
- 「小学校学習指導要領 特別活動編」（平成29年告示文部科学省）
- 「小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編」（平成29年告示 文部科学省）
- 「中学校学習指導要領 道徳編」（平成29年告示 文部科学省）
- 「中学校学習指導要領 特別活動編」（平成29年告示 文部科学省）
- 「中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編」（平成29年告示 文部科学省）
- 「誰もが幸せになるための学力を」古関勝則著（クリエイツかもがわ）2017年8月31日

## 参考文献

授業においてその都度紹介する。